

# JIS X 8341-3の読み方講習 (ウェブ編)

2023年11月21日

ウェブアクセシビリティ基盤委員会 委員長  
中村 精親 (株式会社ミツエーリンクス)

# 自己紹介

ウェブアクセシビリティ基盤委員会（WAIC）委員長  
中村 精親（なかむら きよちか）

株式会社ミツエーリンクス  
アクセシビリティ部ゼネラルマネージャー



アクセシビリティ・スペシャリストとして、ウェブサイト構築時の監修や検証を行うほか、企業向けガイドラインの監修、作成なども担当

# ウェブアクセシビリティ基盤委員会 (WAIC)

JIS X 8341-3の理解と普及を促進するとともに、JIS X 8341-3を利用してウェブアクセシビリティを高めていくために必要な基盤の構築を目指し、さまざまな活動を行っています。



The screenshot shows the WAIC website homepage. At the top, there is a search bar and a navigation menu with items: ホーム (Home), 基礎知識 (Basic Knowledge), ガイドライン (Guidelines), Q&A, セミナー (Seminar), 参考資料 (Reference Materials), and ニュース (News). The main content is divided into two columns. The left column has sections for 'アクセシビリティとは' (What is Accessibility) and 'プロセス' (Process). The right column has sections for 'ガイドライン' (Guidelines) and 'WCAG 2.0関連翻訳文書' (WCAG 2.0 Related Translation Documents). A search bar is located at the top right of the page.

**アクセシビリティとは**

さまざまな利用者が、さまざまなデバイスを使い、さまざまな状況でウェブを使うようになった今、あらゆるウェブコンテンツにとって、ウェブアクセシビリティは必要不可欠な品質と言えます。

[アクセシビリティとは](#)

**プロセス**

JIS X 8341-3に基づきウェブアクセシビリティを高めるプロセスとして、以下の流れを推奨します。

1. 方針の策定と公開
2. アクセシブルなコンテンツ制作
3. 試験の実施と結果の公開

[ウェブアクセシビリティを高めるプロセス](#)

**ガイドライン**

**JIS X 8341-3関連文書**

- [JIS X 8341-3:2016解説](#)
- [ウェブアクセシビリティ方針策定ガイドライン](#)
- [JIS X 8341-3対応度表記ガイドライン](#)
- [JIS X 8341-3対応発注ガイドライン](#)
- [アクセシビリティ サポートド \(AS\) 情報](#)
- [JIS X 8341-3試験実施ガイドライン](#)

**WCAG 2.0関連翻訳文書**

- [WCAG 2.0](#)
- [WCAG 2.0解説書](#)
- [WCAG 2.0達成方法集](#)
- [WCAG 2.0クイックリファレンス](#)

[ガイドライン一覧](#)

ウェブアクセシビリティ基盤委員会  
<https://waic.jp>

# 株式会社ミツエーリンクス

主な事業はWebインテグレーション事業



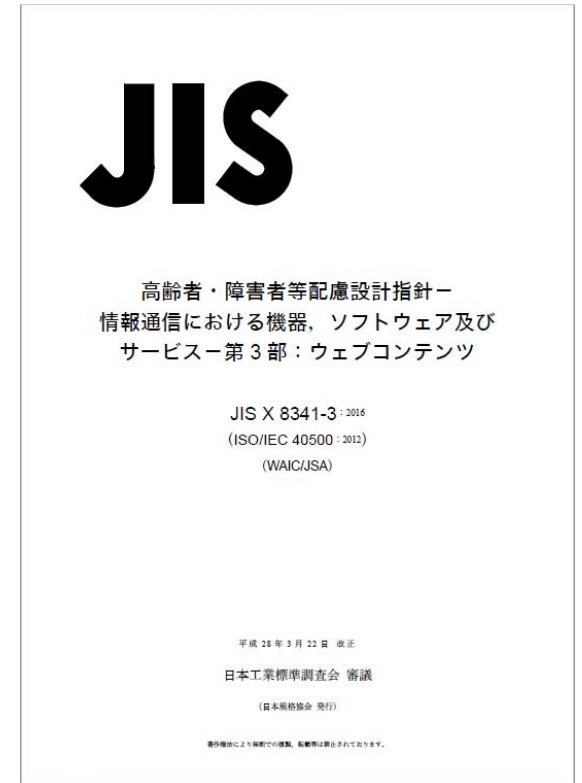
ミツエーリンクス  
<https://www.mitsue.co.jp/>

# JIS X 8341-3:2016について知る

# 再掲：ウェブアクセシビリティに関する規格

## JIS X 8341-3

- ウェブアクセシビリティを確保するための規格がある
- さまざまな環境からアクセスできるようにするために満たすべき基準が定められている



# 規格票の閲覧方法

「JIS X 8341-3の規格票は、日本規格協会のWeb販売サイト「JSA Webdesk」で購入できます。閲覧だけであれば、日本産業標準調査会のサイトで可能です（JIS検索にある「JIS規格番号からJISを検索」にて「X8341-3」と入力して検索してください）。」

アクセシビリティとは | ウェブアクセシビリティ基盤委員会 (WAIC)  
<https://waic.jp/knowledge/accessibility/>

# JIS X 8341-3:2016の構成

- 序文
- 0A 適用範囲
- 0B インTRODクシヨシヨン～附属書C
- 附属書JA
- 附属書JB
- 解説



# 「序文」より引用（※2）

「この規格は、2012年に第1版として発行されたISO/IEC 40500を基に、技術的内容及び構成を変更することなく作成した日本工業規格である。」

※ 日本工業規格はJIS法改正により、日本産業規格となりました。

※2 以下、本資料では特に記載のない限り引用とした箇所は「JIS X 8341-3:2016」からの引用とします。

参考：JIS法改正に伴う文書内の規格名表記について  
<https://waic.jp/news/20190801/>

# 「0A 適用範囲」より引用

「附属書JA 及び附属書JB は対応国際規格にはない事項である。これは、この規格において、旧規格（JIS X 8341-3:2010）にあった独自の要求事項を推奨事項とし、その内容を附属書（参考）として示すことにしたためである。」

# 「0A 適用範囲」の注記1

「この規格の対応国際規格及びその対応の程度を表す記号を，次に示す。

ISO/IEC 40500:2012 , Information technology  
 – W3C Web Content Accessibility Guidelines  
 (WCAG) 2.0 (IDT)

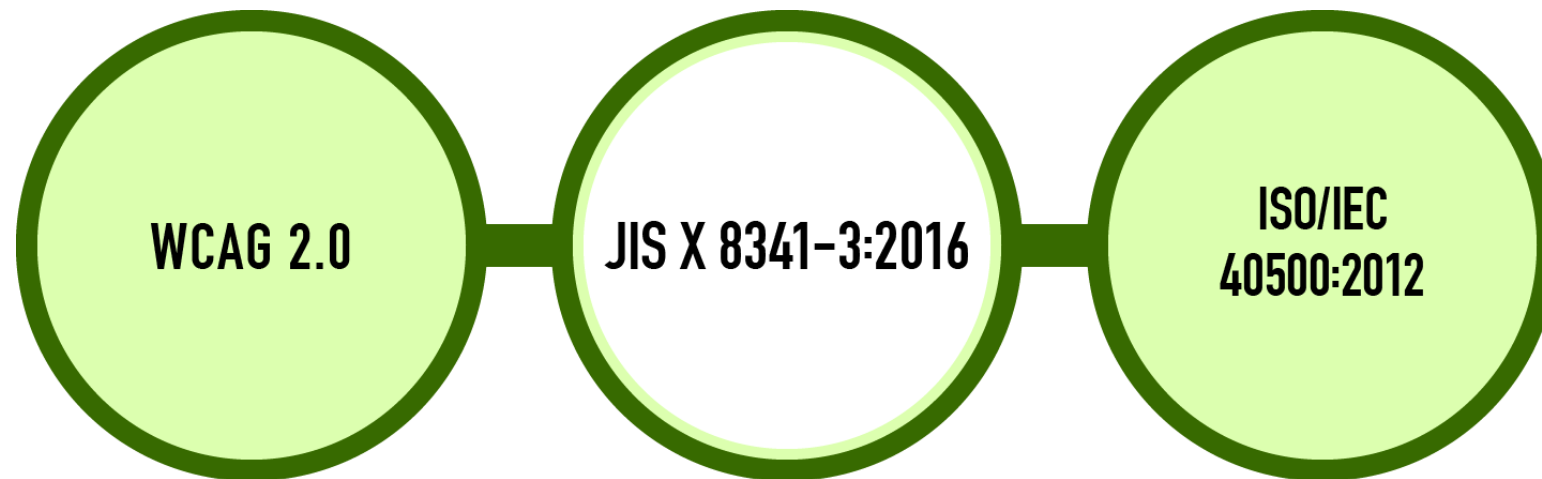
なお，対応の程度を表す記号“IDT”は，ISO/IEC Guide 21-1 に基づき，“一致している”ことを示す。」

# 「0A 適用範囲」の注記2

「この規格の対応国際規格は、W3CのWeb Content Accessibility Guidelines (WCAG) 2.0の文書をそのまま使用しており、最新の情報はW3Cが公開している原文 (<http://www.w3.org/TR/WCAG20/>) にて確認する。」

# JIS X 8341-3:2016とWCAG 2.0の関係

JIS X 8341-3:2016はISO/IEC 40500:2012との一致規格であり、技術的にはWCAG 2.0と同じ内容



アクセシビリティとは | ウェブアクセシビリティ基盤委員会 (WAIC)  
<https://waic.jp/knowledge/accessibility/>

# 0B インTRODクシヨシヨン～附属書C

- WCAG 2.0と一致している部分
- 「1 知覚可能の原則」から「4 堅ろう（牢）（Robust）の原則」までに「達成基準」と呼ばれる満たすべき基準が記載されている

# WCAG 2.xを読むための参考資料

- アクセシビリティ・ガイドラインの歩き方（初心者編

<https://japan-a11y-conf.com/vol1/session.html#how-to-read-accessibility-guidelines>

資料：

<https://docs.google.com/presentation/d/1U74164uPJsHQU12OcAeZPVwfwCzAWJy6hSPZyCxG8kM/edit#slide=id.p>

- こうすればできる！ウェブアクセシビリティ実装のポイントと実装チェックリストの作り方

<https://waic.jp/seminar/2018-08/report/>

# 附属書JA（参考）

ウェブアクセシビリティの確保・維持・向上のプロセスに関する推奨事項

附属書JA

に基づいて、「ウェブアクセシビリティ方針」を文書化する際は、ウェブアクセシビリティ基盤委員会が独自に作成した「[ウェブアクセシビリティ方針策定ガイドライン](#)」が参考になる。

JIS X 8341-3:2016 解説

<https://waic.jp/docs/jis2016/understanding/201604/>



# 附属書JB (参考)

## 試験方法

### 附属書JB

に基づいて試験を実施するにあたっては、ウェブアクセシビリティ基盤委員会が独自に作成した「[JIS X 8341-3:2016 試験実施ガイドライン](#)」が参考になる。

JIS X 8341-3:2016 解説

<https://waic.jp/docs/jis2016/understanding/201604/>

# 解説

「原案を作成したウェブアクセシビリティ基盤委員会（WAIC）のJIS X 8341-3改正原案作成委員会およびJIS X 8341-3改正原案作成分科会が執筆した『JIS X 8341-3:2016』の解説。」

JIS X 8341-3:2016 解説

<https://waic.jp/docs/jis2016/understanding/201604/>

# 各項目の詳細については

JIS X 8341-3:2016 解説

<https://waic.jp/docs/jis2016/understanding/201604/>

も参照ください。

# WCAG 2.0と後継バージョンの関係

# WCAGの最新バージョン

WCAG 2.0はISO/IEC 40500:2012となったあと、2回にわたり拡張された  
現在の最新バージョンはWCAG 2.2である

W3C Recommendation

## Web Content Accessibility Guidelines (WCAG) 2.2

W3C Recommendation 05 October 2023



▼ More details about this document

**This version:**  
<https://www.w3.org/TR/2023/REC-WCAG22-20231005/>

**Latest published version:**  
<https://www.w3.org/TR/WCAG22/>

**Latest editor's draft:**  
<https://w3c.github.io/wcag/guidelines/22/>

**History:**  
<https://www.w3.org/standards/history/WCAG22/>  
[Commit history](#)

**Implementation report:**  
<https://www.w3.org/WAI/WCAG22/implementation-report/>

**Previous Recommendation:**  
<https://www.w3.org/TR/WCAG21/>

**Editors:**  
[Alastair Campbell](#) (Nomensa)  
[Chuck Adams](#) (Oracle)  
[Rachael Bradley Montgomery](#) (Library of Congress)  
[Michael Cooper](#) (W3C)  
[Andrew Kirkpatrick](#) (Adobe)

**Feedback:**  
[GitHub w3c/wcag](#) (pull requests, new issue, open issues)

**Errata:**  
[Errata exists.](#)

See also [translations](#).

Copyright © 2020-2023 World Wide Web Consortium. W3C® liability, trademark and document use rules apply.

# WCAG 2.0とWCAG 2.2の関係

- WCAG 2.1はWCAG 2.0を拡張したもの
  - 2.1の基準を満たすことで2.0も満たすことができる
- WCAG 2.2はWCAG 2.1を拡張したもの
  - 2.2の基準を満たすことで2.1も2.0も満たすことができる

# JIS X 8341-3:2016とWCAG 2.2

- JIS X 8341-3:2016の基準を満たすにはWCAG 2.0の基準を満たせばよい
- しかし、WCAG 2.1と2.2では「認知または学習障害のある利用者、ロービジョンの利用者、モバイルデバイス上の障害のある利用者」のアクセシビリティ改善を目的とした達成基準が追加されている

# まとめ (1)

- JIS X 8341-3:2016とWCAG 2.0は技術的に同内容である
- それに加えて、参考情報として「プロセス」と「試験」に言及している部分があり、その内容はWAICのウェブサイトなどで詳細を確認できる



## まとめ (2)

- WCAG 2.0には後継となるバージョンがある
  - 本セミナー実施時点でWCAG 2.2が最新
  - WCAG 2.xは最新版を満たすことで、それまでのバージョンの基準も満たすことができる
- JIS規格の技術基準を満たすことは重要だが、新しい達成基準を含む最新バージョンを参照し、今後を踏まえた、よりアクセシブルなウェブサイト（やアプリケーション）を構築いただきたい